

学校関係者評価 報告書

対象期間:2025年4月1日~2026年3月31日

学校法人:早稲田大学

早稲田大学芸術学校

令和8年5月28日

早稲田大学芸術学校
校長 宮本 佳明 殿

学校関係者評価委員会
委員長 加藤 麻樹

学校関係者評価委員会報告

令和7年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

種別	所属	役職名	氏名	備考
学識経験者	早稲田大学 人間科学学術院	教授	加藤 麻樹	本委員会委員長
関係業界	建築家、 前橋工科大学 神奈川大学工学研究所	名誉教授 客員教授	石田 敏明	本委員会副委員長
専修学校団体・ 関係団体	稲芽会、 株式会社竹中工務店	稲芽会 副理事長	田中 茂	

(敬称略)

2 学校関係者評価委員会の開催日時

令和8年 5月22日 (ZOOM ミーティングにて)

3 学校関係者委員会報告

各委員から提出された評価シートの記載をもとに基準1～6について意見を交わした。詳細は別紙のとおりである。

以上

I 重点目標について

1 重点目標①について

目標に向けた活動が適切に実施されている。

2 重点目標②について

目標に向けた活動が適切に実施されている。

3 重点目標③について

目標に向けた活動が適切に実施されている。

4 重点目標④について

目標に向けた活動が適切に実施されている。

さらなる早稲田大学創造理工学部/大学院創造理工学研究科の建築学科との連携により、芸術学校の特徴をより強固にできるのではないか。同学科との「連携協議会」を通じて双方の関係がより発展し、さらに互いの学生に還元されるような活動を期待する。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント

全体として各点検・評価項目について適正に活動および自己評価がなされており、今後の継続が期待される。

2 教育課程、教育の実施、学修成果

全体として各点検・評価項目について適正に活動および自己評価がなされており、今後の継続が期待される。

「自己評価報告書 2-2 教育課程の実施」について、学生指導、情報の管理の観点から、欠席時のオンデマンドによる補完については、単に授業動画を公開するのではなく、欠席者の事情を把握・勘案し、学校として認める場合のみ学生個別に時限付きの授業動画視聴用 URL を伝達することとされているが、引き続き情報管理に努めてほしい。また、欠席者や遅刻者への柔軟な対応を含め、授業を質的に保障する環境を構築している一方で付随的指導による教職員の過度な負担増加や依存的就学態度のリスクを考慮されたい。

「自己評価報告書 2-4 学修成果目標の達成状況」について、学生の構成が学部と一線を画する芸術学校の進路状況に鑑みて、学校の特性にマッチしたキャリア形成が期待できる。卒業後の資格取得状況について、毎年1度の稲芽会イベントにて具体的な情報を収集されており、今後も学校側と稲芽会との連携により、更なる情報収集が期待される。

3 学生の受入れ、学生支援

全体として各点検・評価項目について適正に活動および自己評価がなされており、今後の継続が期待される。

「自己評価報告書 3-1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理」について、建築都市設計科の定員充足率が横ばいで推移しているものの、3年編入の活性化により3年次は同科も定員をほぼ満たしていることもあり、大幅な増加はキャンパシティの観点等から難しいが、入学時の定員充足について引き続き向上が期待される。学生募集に係る広報の充実を引き続き期待したい。

「自己評価報告書 3-2 多様な学生に対する修学支援」について、就労中の学生が多い点で他校に比べ多様性が充実している。

科目等履修生に関しては、昨今の学びなおしの機運もあるので、きめ細かく情報を発信し、例えば卒業生にも積極的にPRするなど更なる工夫が期待できる。

「自己評価報告書 3-3 学生生活に関する支援」について、就労と就学の両立にかかる卒業生等による知見（ヒューリスティックな体験など）の共有と活用が期待される。また、卒業時の進路報告によると、進路未定者が一定数いることから、卒業後ある程度時期が経ったタイミングでヒアリング等ができる仕組みの構築を期待したい。

4 教員・教育実施組織

全体として各点検・評価項目について適正に活動および自己評価がなされており、今後の継続が期待される。

「自己評価報告書 4-3 教員の資質の向上」について、教育にかかる FD とともに研究資質向上への注力も期待される。

5 教育環境

全体として各点検・評価項目について適正に活動および自己評価がなされており、今後の継続が期待される。

6 教育活動の基盤と情報の公表

全体として各点検・評価項目について適正に活動および自己評価がなされており、今後の継続が期待される。

「自己評価報告書 6-3 学校評価の実施と改善活動」について、法改正による第三者機関による評価の努力義務化と移行に際し、環境がまだ追い付いておらず、信頼性と妥当性のある評価尺度の構築が期待される。今後の第三者評価の仕組みを検討するため、引き続き情報収集等に努める必要がある。また、第三者評価実施に際しては客観性を担保するという意味においても、情報収集と導入判断について適切に判断する必要がある。

「自己評価報告書 6-3 社会からの理解と情報の公表」について、例えば近年の学部生や大学院生はテレビや新聞等の情報にはほとんど触れず、また特定の SNS を日常的な情報ツールとしていることなどに見られるように、急激なメディア変遷が続き続けており、今後も情報発信の際の柔軟な対応が期待される。

また、公式 Web や Web 広告等におけるログ解析等を実施することにより、今後の情報発信へのフィードバックとさらなる活用を期待する

Ⅲ まとめ（総評）

建築にかかる社会的関心は高いことから、周知手段について今後柔軟に対応することで入学希望者の増加が期待できると考えられる。学内広報について、学生、教員に対し芸術学校の存在や内容を周知するため、学内会議での伝達や協力要請などの工夫を期待したい。

「卒業時進路調査」は昨年度に比べ提出率が倍増、ほぼ 100%となったことから、実施方法や進捗管理等への改善成果を見て取ることができた。また、参考資料内の新入生入学時アンケートの結果において、芸術学校の教育的特徴が明らかに示されているとともに進学希望者数も増えているた

め、学生のモチベーションの高さが窺える。一方、建築都市設計科（3年制）の定員充足については、今後の課題といえる。

諸々の情報収集が着目点の把握につながっており、学生対応・学校運営に反映にできている。継続して情報を収集することにより有用な情報を蓄積・分析し、今後もより確度の高い判断と対応に活用することが期待できる。現状、内部用の情報収集活動ではあるが、可能な範囲でデータを公開し「学校の見える化」を図ることも期待したい。

在学生にとって、卒業生との交流、進路について情報獲得の前項の機会となる「稲芽会」の更なる活動の広がりとは在学生の積極参加が望まれる。

以上